

# 国語

## 資質・能力を身に付けた姿を具体的に想定した授業づくり

新しい学習指導要領では、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成を目指すことが示されています。そこで、育成を目指す資質・能力に即したねらいの設定と、資質・能力の育成を図るための手立ての構想について、「一つの花」(小学校第4学年・物語文「第3場面」)の授業を例に以下に示します。

**ポイント1 指導事項(=育成を目指す資質・能力)に即して、本時におけるねらいを具体的に設定する。**

(指導事項) C(1)エ  
登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

学習指導要領解説の内容を踏まえ、**資質・能力が身に付いた姿を授業者が具体的に想定した上で、本時におけるねらいを設定**

(資質・能力を身に付けた姿を具体的に想定したねらい)  
「ゆみ子」に対する「父」の**気持ちの変化**について、「情景」「行動」「会話」の中から**複数**を結び付けて**具体的に想像**することができる。  
※解説の文言を基にしながら授業者が設定(太字部分)

**ポイント2 本時におけるねらいに照らして児童の学びを分析し、授業における適切な手立てを構想する。**

### 学びの分析

これまでに行った物語文の授業の様子や評価等から、登場人物の行動や気持ちなどを、叙述を基に捉えることはできている。更に深い読みを実現するためには、複数の叙述を結び付けたり、気持ちの変化を捉えたりする力を身に付けさせる必要がある。

☆資質・能力の育成に向けて、児童が言葉による見方・考え方を働かせることができるように構想した手立て

#### 【手立て1】

叙述間の「気持ちの変化」に着目

娘のわがママが始まった時の「父」の心情と、花を渡した時の心情の違いを比較して考えさせる。

娘がかawaiiそうという気持ちだったと思う。でも、花をあげた後はにっこりわらっているぞ！



#### 【手立て2】

「情景」と「行動」のつながりに着目

「ごみすて場」等の負のイメージの場所に咲く花(情景)を取ってきて与えたこと(行動)の意味を考えさせる。

ごみすて場の花がゆみ子への最後のプレゼントなの？あっ、父はこの花に何か特別な思いをこめたのかも！



### 目指す児童の姿

「情景」の意味するところと、その前後における「父」の「行動」から想像できる心情の変化を関連付けて解釈する力が身に付いたと判断される状況

#### (児童の考えの例)

ゆみ子がかawaiiそうだという父の気持ちか、ごみすて場でも美しくさくコスモスを見たことで、ゆみ子にもこの花のようにがんばって生きてほしいという気持ちに変わったのが分かります。

育成を目指す資質・能力を授業者が具体的に想定し、言葉による見方・考え方を働かせる場面を授業の中で繰り返し経験させることで、資質・能力を系統的・段階的に身に付けさせていくことが大切です。

